

2020 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2019 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2019 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究研究所は 2020 年度において 3 つの重点プロジェクトと、5 つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは、それぞれ(1)「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」、(2)「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」、(3)「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」を強く意識しながら研究を行っている。「史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。「現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索」においては、「間文化現象学研究」と「暴力からの人間存在の回復」の 2 つのユニットによって研究を推進し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。「グローバルなモビリティの渦中にあるアジア地域が直面する諸課題に関する考察と実践的な対応の模索」では、「政治・経済」的な側面および「観光・地理・文化」的側面からのアプローチを行い、グローバリゼーションに直面するアジア地域を多方面から研究している。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2020 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的に行った。

まず①「敗戦と戦後政治体制構想」(代表:小関素明)では計 4 回の研究会を開催し、一年間の研究成果のひとつとして特集「日本近代国家の基底と外縁」(『立命館大学人文科学研究書紀要』124 号)を公刊した。②「間文化現象学と暴力からの人間存在の回復」(代表:加國尚志)では、4 回の講演会・ワークショップ・研究会を行うことによって、芸術と人間存在の関係についての考察を深め、国内外の研究者とネットワークを形成し、一部の成果を『立命館大学人文科学研究書紀要』126 号の小特集「対話の促し——『子どものための哲学』について」としてとりまとめ刊行した。③「グローバル化とアジアの地域」(代表:遠藤英樹)では、9 回の研究会と、1 回の国内シンポジウム「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)以後の観光研究」を開催した。また国際シンポジウムとして、a) マレーシアからクレメント・リアン氏を招聘し「Malaysia on Tour with/after COVID-19」を、b) オーストラリアから当該研究の第一人者であるアンソニー・エリオット氏を招聘し「AI 以後の人文・社会科学を問う」を、c) イギリスからティム・エデンサー氏を招聘し「COVID-19 以後のモビリティ研究」を開催し、さらに d) ゲスト・スピーカーとしてプルムノウン・アオク氏を招聘しオンライン・パフォーミング・アーツ座談会「『いのちの橋を渡る音色(Phleng SPean Chivit)』の創作をめぐる」を開催した。こうした研究成果のひとつとして、『立命館大学人文科学研究書紀要』125 号において小特集「人文科学における観光研究」、127 号において特集「『グローバル化と公共性』研究会の成果報告」をまとめ刊行した。

若手研究者の支援

人文科学研究研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。その具体的な成果として、本研究所から育った若手研究者が大学教員の職を得たり、他研究機関の研究員に採用されたり、民間財団の研究助成に採択されたりしている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況のもとで様々な制約はあったものの、2020 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言えよう。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2021年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	遠藤 英樹	文学部	教授
運営委員	小関 素明	文学部	教授
	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授
	亀井 大輔	文学部	教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	神田 孝治	文学部	教授
	河野 恵一	法学部	教授
	白戸 圭一	国際関係学部	教授
	谷 徹	文学部	特任教授
	藤巻 正己	文学部	特任教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	加國 尚志	文学部	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	山本 理佳	文学部	准教授
	石崎 祥之	経営学部	教授
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
	De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授
	児玉 恵理	文学部	特任助教
	勝村 誠	政策科学部	教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授
	林 芳紀	文学部	准教授
	鈴木 崇志	文学部	准教授(任期制)
	佐藤 愛	言語教育センター	嘱託講師
	江口 友朗	産業社会学部	教授
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授
	櫻井 純理	産業社会学部	教授
	佐藤 誠	立命館大学	名誉教授
	龍澤 邦彦	国際関係学部	特任教授
	本名 純	国際関係学部	教授
	井手上 和代	国際関係学部	嘱託講師
	市井 吉興	産業社会学部	教授
	住田 翔子	産業社会学部	准教授

	ウェルズ 恵子	文学部	教授	
	花崎 育代	文学部	教授	
	小林 ハッサル 柔子	グローバル教養学部	准教授(任期制)	
	横田 祐美子	衣笠総合研究機構	研究教員(助教)	
	竹中 歩	グローバル教養学部	准教授	
	前川 一郎	グローバル教養学部	教授	
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	吉田 武弘	文学部	授業担当講師
		山口 一樹	衣笠総合研究機構	専門研究員
		小田切 建太郎	衣笠総合研究機構	専門研究員
		松田 智裕	文学部	初任研究員
		寺澤 優	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生	下村 晃平	社会学研究科	博士課程後期課程
		塩野 仁志	社会学研究科	博士課程後期課程
		角田 燎	社会学研究科	博士課程後期課程
		前田 一馬	文学研究科	博士課程後期課程
		印牧 真明	文学研究科	博士課程後期課程
		HUANG Rongquian	文学研究科	博士課程前期課程
		An Geluma	文学研究科	博士課程前期課程
		GUO Yang	文学研究科	博士課程前期課程
		LIANG Yuyao	文学研究科	博士課程前期課程
		LIU Yazhi	文学研究科	博士課程前期課程
		高田 一輝	文学研究科	博士課程前期課程
		岡 颯馬	文学研究科	博士課程前期課程
		斉藤 仁志	文学研究科	博士課程後期課程
		宮下 祥子	社会学研究科	博士課程後期課程
		伊故海 貴則	文学研究科	学振特別研究員 DC
		十河 和貴	文学研究科	学振特別研究員 DC
		古 文英	文学研究科	博士課程後期課程
		海野 大地	文学研究科	博士課程後期課程
		田中 将太	文学研究科	学振特別研究員 DC
		福井 優	文学研究科	博士課程後期課程
		吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程
中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程		
落合 優翼	文学研究科	博士課程前期課程		
狩野 晃一	文学研究科	博士課程前期課程		
市川 博規	文学研究科	博士課程後期課程		
有村 直輝	文学研究科	博士課程後期課程		

		柳川 耕平	文学研究科	博士課程後期課程
		足立 弦彦	社会学研究科	博士課程後期課程
		川口 由香	国際関係研究科	博士課程後期課程
		北 和樹	国際関係研究科	博士課程後期課程
		五十嵐 美華	国際関係研究科	博士課程後期課程
		劉 可	国際関係研究科	博士課程前期課程
		松原 大介	文学研究科	博士課程後期課程
		三谷 舜	社会学研究科	博士課程後期課程
		④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)		
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研 究生、研修生等)		松下 冽	国際関係学部	授業担当講師
		梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師
		猪原 透	文学部	授業担当講師
		眞杉 侑里	文学部	授業担当講師
		丸山 彩	文学部	授業担当講師
		塩見 俊一	産業社会学部	非常勤講師
		青柳 雅文	文学部	非常勤講師
		神田 大輔	文学部	非常勤講師
		田邊 正俊	文学部	非常勤講師
客員協力研究員		小林 琢自	文学部	非常勤講師
		西口 清勝	社会システム研究所	客員研究員
		中谷 義和	人文科学研究所	上席研究員
		韓 準祐	多摩大学	専任講師
		安田 峰俊	ファンフィクション作家	
		谷崎 友紀	甲南大学	非常勤講師
		二村 洋輔	海陽学園海洋中等教育学校	教諭
		間中 光	追手門学院大学	講師
		麻生 将	佛教大学	非常勤講師
		奈良 勝司	広島大学	准教授
		向 静静	人文科学研究所	客員研究員
		赤澤 史朗	人文科学研究所	上席研究員
		今西 一	小樽商科大学	名誉教授
		佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学	助教授
		穎原 善徳	人文科学研究所	客員研究員
		島田 龍	人文科学研究所	客員研究員
	平石 貴士	人文科学研究所	客員研究員	
	西田 彰一	京都産業大学	日本学術振興会特別 研究員	

	井澤 友美	人文科学研究所	客員研究員
	山口 達也	外務省外交史料館	非常勤講師
その他の学外者	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	瀬川 真平	大阪学院大学	教授
	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	轟 博志	APU アジア太平洋大学	教授
	四本 幸夫	APU アジア太平洋大学	教授
	石井 香世子	立教大学	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桃山学院大学	教授
	堀野 正人	二松学舎大学	教授
	寺岡 伸悟	奈良女子大学	教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	准教授
	Daniel Milne	京都大学	講師
	鈴木 裕貴	京都大学大学院人間・環境学研究科	博士課程後期課程
	藤野 真挙	東儀大学校	教授
	路剣虹	江蘇海洋大学日本語学科	講師
	川崎 唯史	熊本大学大学院	助教
	黒岡 佳祐	福州大学(中華人民共和国)	副教授
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	池田 裕輔	釧路工業高等専門学校	准教授
	浅沼 光樹	高野山大学	非常勤講師
	Michel Dalissier	金沢大学	准教授
	長尾 伸一	名古屋大学	名誉教授
	西本 和見	中京大学経済学部	准教授
	田中 啓太	尚見学園大学	講師
	安藤 順彦	名古屋大学経済学研究科	博士課程後期課程
	三枝 暁子	東京大学	准教授
	藤川 隆男	大阪大学文学部	教授
	Christine Winter	Flinders University (Matthew Flinders Fellow), College of Humanities, Arts and Social Science	Fellow
Yong Yen Nie	京都大学大学院経済学研究科	博士課程後期課程	
酒井 麻依子	筑波大学	日本学術振興会特別研究員 PD	
栗谷 佳司	—	—	

	加茂 利男	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
研究所・センター構成員 計 141 名(うち学内の若手研究者 計 38 名)			

Ⅲ. 研究業績(公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be Published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2021年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Hideki ENDO, Koji KANDA	Understanding tourism mobilities in JaPan	編著	2020年10月	Routledge	Hideki ENDO ed.	ENDO: PP. 1-12, PP. 111-123, PP. 182-196 KANDA: PP. 87-97,
2	遠藤英樹	[クリティカルワード]メディア論	共著	2021年2月	フィルムアート社	門林岳志・増田展大編	PP. 249-255
3	神田孝治	万博学——万国博覧会という、世界を把握する方法	単著	2020年8月	思文閣	佐野真由子編	PP. 387-400
4	羽谷沙織	若手研究者必携 比較教育学のアカデミック・キャリアー比較教育学を学ぶ人の多様な生き方・働き方	単著	2021年3月	東信堂	森下 稔・鴨川 明子・市川 桂編著	PP. 172-180
5	羽谷沙織	アジア教育情報シリーズ 東南アジア編	単著	2021年2月	一藝社	牧 貴愛(著, 編集), 大塚 豊(監修)	PP. 109-122
6	安田峰敏	現代中国の秘密結社	単著	2021年2月	中央公論新社		全 247 頁
7	安田峰敏	「低度」外国人材	単著	2021年3月	角川書店		全 264 頁
8	鎮目真人	年金制度の不人気改革はなぜ実現したのか	単著	2021年2月	ミネルヴァ書房		全 312 頁
9	鎮目真人	よくわかる福祉社会学	共著	2020年10月	ミネルヴァ書房	武川正吾、森川美絵、井口高志、菊地英明編著	PP. 50-53, 92-93, 96-101
10	鎮目真人	どうする日本の福祉政策	共著	2020年10月	ミネルヴァ書房	埋橋孝文編	PP. 23-40
11	松田亮三	社会的弱者への診療と支援	監訳	2020年6月	金芳堂	松田亮三・小泉昭夫 監訳(原著 Talmadge E. King・Margaret B. Wheeler 編)	PP. 384
12	小関素明	日本近代主権と「戦争革命」	単著	2020年12月	日本評論社		PP. 1-488
13	宮下祥子	「日高六郎の学校教育をめぐる思想と運動」(『戦中・戦後の経験と戦後思想 一九三〇—一九六〇年代』)	単著	2020年	現代史料出版	北河賢三・黒川みどり編	PP. 137-171
14	宮下祥子	「日高六郎と「デモクラシーの心理学」(『戦後民主主義』の歴史的研究)。	単著	2021年3月	法律文化社	出原政雄・望月詩史編	PP. 183-204
15	梶居佳宏	住谷悦治と「戦後民主主義」—『京都新聞』『夕刊京都』における言論活動を手がかりに—(『戦後民主主義』の歴史的研究)	単著	2021年3月	法律文化社	出原政雄・望月詩史編	PP. 138-157

		究』)。					
16	西田彰一	五箇条の御誓文と「普選壇」建設運動——名古屋新聞の取り組みを中心に(『「明治」という遺産——近代日本をめぐる比較文明史』)	単著	2020年	ミネルヴァ書房	瀧井一博編	PP. 416-432
17	西田彰一	亀井勝一郎『大和古寺風物誌』を読む——その思想と入江泰吉の写真論への影響(『奈良に蒔かれた言葉と思想。——「近世・近代」の思想研究会」調査研究レポート』)	単著	2021年3月			PP. 31-44
18	Toru Tani	Transitions - Crossing Boundaries in Japanese Philosophy,	共著	2021年3月	Chisokudo Publications, Nagoya	ed. by Leon Krings, Francesca Greco, Yukiko Kuwayama	
19	亀井大輔	現代フランス入門	共著	2020年7月	ミネルヴァ書房	川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編著	
20	川崎唯史	フェミニスト現象学入門——経験から「普通」を問い直す	共著	2020年6月	ナカニシヤ出版	稲原美苗、中澤瞳、宮原優	
21	加國尚志	M. メルロ＝ポンティ著『自然 コレージュ・ド・フランス講義ノート』	共訳	2020年5月	みすず書房	松葉祥一(共訳)	
22	鈴木崇志	『フッサールの他者論からい倫理学へ』	単著	2021年2月	晃洋書房		
23	櫻井純理	どうする日本の労働政策	編著	2021年3月	ミネルヴァ書房		全283頁
24	日暮雅夫	アメリカ批判理論:新自由主義への応答	共著	2021年3月	晃洋書房		全350頁
25	白戸圭一	はじめてのニュースリテラシー	単著	2021年3月	筑摩書房	なし	PP. 1-218 (全編)
26	本名純	インドネシア・ジョコウィ政権にみる情動エンジニアリングの政治	共著		明石書店『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』所収	見市建編著	PP. 21-38
27	三枝暁子	『コロナの時代の歴史学』	共著	2020年12月	續文堂出版	中澤達哉(共編者)	PP. 90-99
28	花崎育代	『三浦哲郎全作品研究事典』	共著	2020年8月	勉誠出版	秋山駿・原善・原田桂編	P. 22, P. 78, PP. 190-191 .
29	市井吉興	『変容するスポーツ政策と対抗点』第6章担当	共著	2020年6月	創文企画	棚山研、山下高行	PP. 88-99
30	佐藤誠	グローバル・ヒストリーと国際法	共訳	2020年12月	日本経済評論社	C.H. アレクサンドロヴィッチ著、大中真・池田丈佑・幡新大実・荻谷千尋・千知岩正雄・周圓訳	第8章「形成途上にある承認理論」PP. 185-229.
31	川村仁子	プライマリー国際関係学	共著	2021年3月	ミネルヴァ書房	足立研幾、板木雅彦、白戸圭一、鳥山純子、南野泰義編	第5章「デモクラシーのジレンマ」PP. 76-93.

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	遠藤英樹	アフター＝ウィズ COVID-19 の観光の可能性	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要. 125号		PP. 3-22	有
2	遠藤英樹	都市研究の移動論的転回	単著	2021年3月	立命館大学人文学会、立命館文学、672号		PP. 76-87	無

3	藤巻正己	世界遺産地区ペナン・ジョージタウンにおける「大衆観光地化」批判	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 185-223	有
4	神田孝治	『鬼滅の刃』が生じさせる新たな聖地 — 「境界の融解」と「移動」に注目した考察—	単著	2021年3月	立命館大学人文学会、立命館文學、672号		PP. 88-109	無
5	神田孝治	COVID-19時代のツーリズム・モビリティーズと場所—2020年における与論島の状況に注目した一考察	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 49-76	有
6	山本理佳	日本における観光ガイド／ガイドツアー研究の現状と課題	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 225-249	有
7	山本理佳	日本遺産「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」と旧軍港市転換法	単著	2021年3月	立命館大学人文学会、立命館文學、672号		PP. 149-162	無
8	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるクメール系ディアスポラの影響	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 315-341	有
9	轟博志	統一新羅における幹線駅路と行政区画の関係に関する試論	単著	2021年3月	立命館大学コア研究所、コア研究、11号		PP. 15-30	有
10	轟博志	朝鮮王朝時代の国土地理思想における「水経」の位置づけ	単著	2021年3月	立命館大学人文学会、立命館文學、672号		PP. 163-180	無
11	轟博志	地籍原図を活用した新羅武珍州(武州)の景観復原	単著	2020年6月	韓国古地図研究学会、韓国古地図研究(国際論文)、12巻1号		PP. . 5-24	有
12	轟博志	朝鮮時代の国土観と通信使の日本への心象地理	単著	2020年6月	朝鮮通信使学会、朝鮮通信使研究(国際論文)、29号		PP. . 85-99	有
13	韓準祐	地域観光に関連する認定・登録制度がもたらすもの	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 251-284	有
14	葉師寺浩之	新型コロナウイルス感染症がもたらした危機からの観光の回復と危機を契機とした変化・変革をめぐる論点の整理	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 151-184	有
15	麻生 将	写真資料からみた近代奄美大島のカトリック	単著	2021年3月	月刊地理 66 - 4		PP. 69—77	無
16	麻生 将	京都のキリシタン	単著	2021年3月	立命館大学人文学会、立命館文學、672号		PP. 138-148	無
17	橋本和也	コロナ禍以後の観光	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 125-150	有
18	間中 光	コミュニティ・ベースド・ツーリズムをめぐる認証と応答	単著	2021年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、125号		PP. 285-313	有
19	加藤雅俊	福祉国家論からみる自由民主主義体制の存立構造	単著	2020年12月	年報政治学 2020 II		PP. 15-36	無
20	鎮目真人、加藤雅俊、松田亮三	A corporate-centred conservative welfare regime: three-layered Protection in Japan	共著	2021年1月	Journal of Asian Public Policy, 14[1] (国際論文)		PP. 110-133	有
21	加藤雅俊	福祉国家の持続可能性に関する一考察	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、127号		PP. 101-123	有
22	加藤雅俊	現代社会における紛争処理システムの構築に向けて	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、127号		PP. 195-229	有
23	加藤雅俊	長崎県諫早市・雲仙市域における地域活性化の可能性と課題	単著	2021年3月	横浜法学、29巻3号		PP. 517-560	無

24	加藤雅俊	諫早湾干拓事業の影響に関する地域住民の認識	共著	2021年3月	建築ジャーナル、1315号	檜澤秀木、開田奈穂美	PP. 18-21	有
25	加藤雅俊、中谷義和、西口清勝、松下冽、勝村誠	「グローバル化と公共性」研究会の歩み	共著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、127号		PP. 9-37	有
26	加茂利男、加藤雅俊	個人史としての現代	共著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、127号	新川敏光、徳久恭子	PP. 235-342	有
27	中谷義和	関係論的国家アプローチの基本的視座	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、127号		PP. 39-66	有
28	松下冽	グローバル化時代における21世紀型「国家—社会」関係の変容	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、127号		PP. 67-100	有
29	松下冽	分断化と警察国家化に向かう21世紀の世界	単著	2021年2月	立命館国際研究、33巻3号		PP. 397-440	無
30	鈴木裕貴	「市民」が描いた原爆の絵	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、127号		PP. 129-164	有
31	角田燎	戦後派世代による「特攻」の慰霊顕彰事業	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、127号		PP. 165-194	有
32	松田亮三	「新型コロナ」から日本の社会を考える(第4回)新型コロナウイルス感染症への対応と保健行政の課題	単著	2020年9月	住民と自治、689号		PP. 5-8	無
33	斎藤仁志	「排日移民法と熊本—熊本海外協会の活動を中心として—」	単著	2020年12月	『立命館大学人文科学研究so紀要』124(立命館大学人文科学研究so)		PP. 91-122	有
34	宮下祥子	「社会科教育と戦後知識人—日高六郎の「社会科教科」をめぐる実践」	単著	2020年	『新しい歴史学のために』296(京都市民歴史部会)		PP. 18-37	有
35	伊故海貴則	「府藩県三治期における三河国諸藩の合議—「三河国藩集会」の研究—」	単著	2020年	『年報近現代史研究』12(近現代史研究会)		PP. 1-21	有
36	伊故海貴則	「明治維新时期地域社会における多数決導入—静岡県駿河国地域の地租改正をめぐる合議を中心として—」	単著	2020年12月	『立命館大学人文科学研究so紀要』124(立命館大学人文科学研究so)		PP. 5-49	有
37	十河和貴	「2017年寄贈「西園寺公望関係資料」の再整理から見た新論点—『西園寺伝』編纂事業の遺産と研究進歩の可能性—」	共著	2021年3月	『立命館 史資料センター紀要』40 立命館 史資料センター	藤野真拳・眞杉侑里		無
38	十河和貴	「書評 小山俊樹著『五・一五事件：海軍青年将校たちの「昭和維新」』」	単著	2020年	『史林』103-5(史学研究会)		PP. 743-749	有
39	海野大地	(蔡蕙頻訳)「民間的東台湾經營與原十目吉：以賀田組的經營期為對象」	単著(翻訳)	2020年4月	『台湾與東亞近代史青年學者研究論集第四輯』			有
40	海野大地	「解題：「西瀛為藏日記」：大正2年1月～6月」	共著	2020年12月	(『立命館大学人文科学研究so紀要』124(立命館大学人文科学研究so))	城下賢一・田中将太・木多悠介・落合優翼・中村凌太郎	PP. 205-265	有
41	落合優翼	「解題：「西瀛為藏日記」：大正2年1月～6月」	共著	2020年12月	『立命館大学人文科学研究so紀要』124(立命館大学人文科学研究so)	海野大地・城下賢一・田中将太・木多悠介・中村凌太郎	PP. 205-265	有
42	梶居佳広	(資料)「日本国憲法と新聞論調：憲法記念日社説一覧1965～1997年(1)」	単著	2020年	『立命館経済学』69-2		PP. 96-115	有

43	梶居佳広	(資料)「徴用工判決(2018年10月30日)以降の日韓関係をめぐる日本の各紙社説一覧:歴史問題を中心に」	単著	2020年	『立命館経済学』69-3号		PP. 165-197	有
44	眞杉侑里	「2017年寄贈「西園寺公望関係資料」の再整理から見た新論点—『西園寺伝』編纂事業の遺産と研究進歩の可能性—」	共著	2021年3月	『立命館 史資料センター紀要』4(立命館 史資料センター)	十河和貴・藤野真挙		無
45	丸山彩	「遠州地方における唱歌教育の黎明期」	単著	2020年	『遠江』44(浜松史蹟調査顕彰会)		PP. 102-117	有
46	丸山彩	「書評 歌川光一著『女子のたしなみと日本近代—音楽文化にみる「趣味」の変容—』」	単著	2020年	『東洋音楽研究』85(東洋音楽学会)		PP. 152-155	有
47	佐藤太久磨	「書評・岡本隆司著『近代日本の中国観』」	単著	2020年6月	『洛北史学』22		PP. 82-88	有
48	頼原善徳	「明治期日本における条約の国内編入をめぐる問題—近代日本における憲法典定着の条件—」	単著	2020年12月	『立命館大学人文科学研究so紀要』124(立命館大学人文科学研究so)		PP. 51-90	有
49	島田龍	「昭森社『左川ちか詩集』(1936)の書誌的考察—伊藤整による編纂態度をめぐって」	単著	2020年9月	『立命館文学』669(立命館大学人文学会)		PP. 71-108	有
50	島田龍	「詩人の罪と罰—伊藤整と左川ちか、「鏡の中」と「幽鬼の街」(1937)論」	単著	2020年12月	立命館大学人文科学研究so紀要』124(立命館大学人文科学研究so)		PP. 123-167	有
51	島田龍	「左川ちかを探して 百田宗治と『左川ちか詩集』」	単著	2020年12月	『詩と思想』401		PP. 95-103	有
52	島田龍	「詩人の青春—伊藤整と左川ちか「昆虫」「死の鬚」」	単著	2021年3月	『立命館文学』673(立命館大学人文学会)			有
53	西田彰一	「〈やまとばたらき〉から見えてくるもの—「皇国精神実修」と「身体健康増進」のあいだ—」	単著	2020年12月	『史潮』88		PP. 3 -29	有
54	西田彰一	「寛克彦の『皇国行政法』論」	単著	2021年1月	『産大法学』54-3・4		PP. 633 - 653	有
55	西田彰一	「近現代日本の戦争と「慰霊」の歴史を振り返って考える—フィールドワークを企画して」	単著	2020年8月	『歴史科学』242		PP. 25-29	有
56	寺澤優	「関東大震災後の花街の秩序変容 - 東京府を事例に -」	単著	2020年5月	『日本歴史』864		PP. 54-70	有
57	藤野真挙	「2017年寄贈「西園寺公望関係資料」の再整理から見た新論点—『西園寺伝』編纂事業の遺産と研究進歩の可能性—」	共著	2021年3月	『立命館 史資料センター紀要』4(立命館 史資料センター)	十河和貴・眞杉侑里		無
58	黒岡佳柁	中国の大学における日本語スピーチ指導の課題—「レトリック」の歴史的展開を踏まえて	単著	2021年3月	立命館大学人文科学研究so紀要No. 126	無	PP. 59-85	有
59	黒岡佳柁	超政治の射程—轟孝夫『ハイデガーの超政治』に寄せて	単著	2021年3月	ZusPiel 第4号(オンラインジャーナル)	無	PP. 3-14	無
60	川崎唯史	メルロ=ポンティの倫理学とボーヴォワール	単著	2020年11月	日本メルロ=ポンティ・サークル、メルロ=ポンティ研究、第24号	無	PP. 55-71	無
61	川崎唯史	文学作品を用いた現象学的倫理学の可能性	単著	2020年11月	日本現象学会、現象学年報、第36号		PP. 3-13	無
62	佐藤勇一	「円、線、空白—メルロ=ポンティとインゴルドの術語を借用したP4cに関する	単著	2021年3月	『立命館大学人文科学研究so紀要』126号	無	PP. 35-58	有

		考察—」						
63	伊勢俊彦	謝罪と赦し、それで終わるものと後に残るもの あるいは償いと継続的コミットメント	単著	2020年4月	立命館大学人文学会, 立命館文学, 665号		PP. 34-47	無
64	浅沼光樹	人間と実在—ポスト・ヒューマンへの東洋的な見方	単著	2020年10月	『現代思想』青土社、48(15)		PP. 290-299	
65	浅沼光樹	「後期シェリングの現象論—意味論的観念論の批判」	単著	2020年11月	『フィヒテ研究』28, 日本フィヒテ協会		PP. 44-57	
66	加國尚志	メルロ=ポンティにおける現象学と形而上学	単著	2020年5月	京都大学哲学論叢刊行会、『哲学論叢』47巻		PP. 1-19	無
67	江口友朗	アジア的な社会保障・福祉システムの数理モデル化とその比較:7か国での「私的な相互援助」の実態に着目して	単著	2020年10月	公益財団法人・旭硝子財団、『旭硝子財団助成研究成果報告:2020』		PP. 1-8	無
68	日暮雅夫	〈インタビュー〉アメリカ批判理論の発展と今日の課題:マーティン・ジェイに聞く	共著	2014年4月	岩波書店『思想』第1153巻	マーティン・ジェイ	PP. 87-91	無
69	長尾伸一	「複合危機と資本主義の未来」(上)	単著	2020年8月	岩波書店『思想』第1156巻		PP. 167-175	無
70	長尾伸一	「複合危機と資本主義の未来」(下)	単著	2020年10月	岩波書店『思想』第1160巻		PP. 147-175	無
71	白戸圭一	書評論文 Nanjala Nyabola, DIGITAL DEMOCRACY, ANALOGUE POLITICS How the Internet Era is Transforming Politics in Kenya	単著	2020年9月	アジア経済研究所『アジア経済』, 61巻3号		PP. 123-126	有
72	本名純	世論を分断する政権のソーシャルメディア工作	単著	2020年9月	日本インドネシア協会『月刊インドネシア』		P. 24	無
73	井手上和代	Production Patterns and Financing of "Jua Kali" Metalworkers in Nairobi, Kenya	単著	2020年	Korean African Society 2020, Academic Conference Proceeding		PP. 83-99	無
74	市井吉興	「創造的復興」と延期された2020東京オリンピック—例外状態・ニュー・ノーマル・ライフスタイルスポーツ	単著	2020年8月	大原社会問題研究所, 大原社会問題研究所雑誌, 742		PP. 67~83	有
75	三谷舜	「スポーツの都市化」が近代スポーツに与えるインパクトとは? :アーバンスポーツ化されたベースボール型競技「Baseball 5」の文化社会学的考察	単著	2021年2月	立命館大学人文科学研究so、立命館大学人文科学研究so紀要、126		PP. 147-170	有
76	小林ハツサル柔子	「人の移動とパンデミックの世界史から見るグローバル時代のコロナ禍」	単著	2020年9月	『KANSAI 空港レビュー』502。		PP. 11-17	招待、特別寄稿依頼
77	Kobayashi, Yasuko Hassall	Society Matters in Surviving COVID-19	共著	2020年6月	SSRN: http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.3635167.	Nakanishi, Hitomi	N/A	無
78	松下冽	SDG s から見える開発協力と世界を問う	単著	2020年4月	『アジア・アフリカ研究』第60巻第2号		PP. 1-37	
79	Andika, Muhammad Tri	SikaP Lunak OKI dalam Pelanggaran HAM KelomPok Muslim Uighur	共著	2020年6月	Analisis CSIS 49 (1)	Damayani, Eley		有
80	MATSUI, Nobuyuki	Alternative View of Institution from the	単著	2020年10月	Journal of the Asia-JaPan Research Institute of		PP. 135-150	有

		“Place of Nothingness” : Social PhilosoPhy of Nakamura Yujiro as the Post-Excluded Middle Law			Ritsumeikan University, Vol. 2,			
81	中谷義和	「自由民主政論」の現代的誘惑性	単著	2021年3月	『立命館法学』2020年5・6号(通巻393・394号)		PP. 547-567	
82	中谷義和	関係論的国家アプローチの基本的視座	単著	2021年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』127号		PP. 39-66	有
83	IZAWA, Tomomi	The Resurgence of Regional Identity: Consideration of PoPulism in Bali, Indonesia	単著	2021年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』126号		PP. 121-145	有
84	川口由香	19世紀ドイツにおける音楽思想ならびに音楽理論の変遷と展開	単著	2021年2月	『立命館大学人文科学研究所紀要』126号		PP. 171-198	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	遠藤英樹	COVID-19 以後のツーリズム・モビリティの可能性	2020年7月	シンポジウム「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以後の観光研究」、立命館大学人文科学研究所 ※オンライン発表	
2	遠藤英樹	After=With COVID-19 の観光の可能性	2020年11月	経団連 21世紀政策研究所勉強会 ※オンライン発表	
3	藤巻正己	ペナン・ジョージタウンは COVID-19 を契機として 「脱観光的」/「節度ある観光地」へと仕切り直し (セツ) すべきだ!	2020年9月	シンポジウム「マレーシア、観光、文化」、立命館大学人文科学研究所 ※オンライン発表	
4	神田孝治	日本統治期台湾における大屯国立公園の指定と地域	2020年10月	「臺北州建州百年紀念」國際學術研討會、國立臺北大學人文學院 1 樓國際會議廳 (新北市三峽區大學路 151 號) ※オンライン発表	
5	神田孝治	興味・恐怖の強度とツーリズム・モビリティ/アセンブリッジ	2020年7月	シンポジウム「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以後の観光研究」、立命館大学人文科学研究所 ※オンライン発表	
6	山本理佳	フィールドワークの可能性: Covid-19 がもたらした変化とともに	2021年3月	立命館大学・人文科学研究所重点プロジェクト「グローバル化とアジアの地域」研究会 ※オンライン発表	
7	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊とその教育におけるオルタナティブな声の表象一性の多様性、ディアスポラ、カンボジア初ゲイ古典舞踊団	2020年4月	アジア教育学会 (国内学会) ※オンライン発表	
8	Saori HAGAI	Contributing to Social Transgression through Dance: Gender, Diaspora and Cambodia's First Gay Classical Dance Company	2020年9月	The 2020 Yokohama SPort Conference (国際学会) ※オンライン発表	
9	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるクメール系ディアスポラの役割	2020年10月	第4回東南アジア教育フォーラム ※オンライン発表	
10	轟博志	新羅時代における駅路の微視的線形	2020年11月	文化歴史地理学会年例学術大会 ※オンライン発表	
11	轟博志	申景濬の水系認識を通じて見た朝鮮の国土地理思想	2020年11月	18th ASIA PACIFIC CONFERENCE ※オンライン発表	
12	轟博志	統一新羅における幹線駅路と行政区画の関係	2020年11月	日本地理学会秋季学術大会 ※オンライン発表	

13	轟博志	朝鮮時代における水経関連地名の比定について	2020年10月	The 10th World Congress of Korean Studies ※オンライン発表	
14	麻生 将	教会史研究における写真資料に関する試論—1930年代の2つの教会の比較から—	2020年9月	第71回キリスト教史学会大会、山梨英和大学 ※オンライン発表	
15	麻生 将	写真資料から見た近代奄美大島のカトリック	2020年10月	日本地理学会秋季学術大会、 ※オンライン発表	
16	麻生 将	近代の都市部におけるプロテスタント教会の存続状況—京都市と大阪市の比較—	2021年3月	キリスト教史学会西日本部会、関西学院大学	
17	橋本和也	コロナ禍以後の観光「一般生活者・一般観光者」の民俗的視点から	2020年7月	北陸観光研究ネットワーク ※オンライン発表	
18	二村洋輔	LEE KOK LIANG と「マレーシア英語文学」	2020年9月	シンポジウム「マレーシア、観光、文化」、立命館大学人文科学研究所 ※オンライン発表	
19	二村洋輔	マレーシアにおける孔子学院の現状	2021年3月	日本比較文化学会 中部支部例会 ※オンライン発表	
20	Yosuke Nimura	Perpetualising the Orientalist Image(s) of the Natives: An Investigation into the Relationship between Nan'yo Kyokai and Alfred Russel Wallace's <i>The Malay Archipelago</i>	2020年7月	International Conference on Literature 2020 ※オンライン発表	Assoc. Prof. Dr. Rashidi Mohamad Pakri
21	谷崎友紀	GIS による近世の名所見物行動の分析に関する報告	2020年11月	人文地理学会大会 ※オンライン発表	
22	松田亮三	新型コロナウイルス感染症にみる日本医療機構のレジリエンス	2020年8月	日本医療福祉政策学会 第4回研究例会 ※オンライン発表	
23	鎮目真人、加藤雅俊、松田亮三	Corporate-centered Conservative Welfare Regime as Japanese Welfare model: A Unified Typology of Welfare and Production Regimes	2020年12月	International Sociological Association RC 19 Annual Meeting ※オンライン発表	
24	加藤雅俊	Theoretical Importance of Exceptional Cases: Japan and Australia in Comparative Welfare State Research	2020年12月	International Sociological Association RC 19 Annual Meeting ※オンライン発表	
25	加藤雅俊	Japanese Social Protection in Transition: from the Employment-based Welfare State to Market-friendly Welfare State	2021年3月	International Conference "Ecological-Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary studies" ※オンライン発表	
26	山口一樹	「軍人政治家・宇垣一成のある一面—『若き士官』事件からみる—」	2020年12月10日	立命館大学ライスボールセミナー（オンライン）	
27	山口一樹	「1920年代後半における政党政治状況と陸軍」	2020年11月4日	大阪歴史科学協議会帝国主義研究部会（オンライン）	
28	宮下祥子	「〈書評〉黒川みどり・山田智『評伝 竹内好—その思想と生涯—』(有志舎、2020年)」	2020年11月6日	現代日本思想史研究会（オンライン）	
29	宮下祥子	「日高六郎における「人間の解放」というモチーフの生成—占領期を中心に—」	2021年3月7日	現代日本思想史研究会（オンライン）	
30	宮下祥子	「日高六郎の戦後啓蒙—学校教育への関わりとその思想を手がかりに—」	2021年3月19日	近代日本思想史研究会第4回例会、立命館大学（京都）	
31	十河和貴	「政党内閣の植民地統治構想と明治憲法体制—拓務省	2020年7月4日	東アジア近代史学会第196回研究例会（リモート）	

		成立から廃止構想へー」			
32	十河和貴	「石塚英蔵総督期台湾をめぐる政治構造と「南進」—拓務省・総督府・実業界を中心として—」	2020年9月6日	台湾史研究会9月例会(リモート)	
33	十河和貴	「濱口内閣の権力統合原理と拓務省廃止構想」	2020年10月3日	東アジア近代史学会2020年度第25回研究大会自由論題報告(リモート)	
34	十河和貴	「犬養内閣の国策審議会構想と「政党政治」の終焉—山本条太郎の産業立国策の帰結—」	2021年1月22日	近代日本思想史研究会第3回例会 立命館大学(京都)	
35	伊故海貴則	「幕末維新期における『一国一円』的統治権力の模索」	2020年7月31日	近代日本思想史研究会第2回例会(オンライン)	
36	伊故海貴則	「明治0～10年代の地域社会における多数決制議会の開設とその波紋—浜松県民会・静岡県会を事例に—」	2021年2月20日	静岡県近代史研究会2月例会(オンライン)	
37	伊故海貴則	「明治維新期の地域社会における多数決制議会の導入と「公議輿論」—浜松県民会・静岡県会を中心に—」	2021年3月13日	日本経済思想史学会第31回全国大会(オンライン)	
38	海野大地	「政友会の組織強化と院外団——「有志」集団の意義と限界」	2021年3月	全国自由民権研究顕彰連絡協議会(全国みんけん連)第2回大会、招待報告	
39	中井悠貴	「「八紘一宇」理念とナショナリティー「擬似普遍性」をめぐって」	2020年7月31日	近代日本思想史研究会第2回例会(オンライン)	
40	中井悠貴	「「八紘一宇」理念の内在的亀裂—「太古文献論争」を中心に」	2020年10月24日	韓国日本近代學會第41回国際學術大會(オンライン)	
41	中井悠貴	「「八紘一宇」理念とナショナリティー—被包摂国側からの逆用事例を通じて」	2021年1月22日	近代日本思想史研究会第3回例会 立命館大学(京都)	
42	島田龍	「記憶と虚構の文学 二人の台湾系直木賞作家(1) 邱永漢、亡命作家から金儲けの神様へ」	2020年7月4日	「文学史を読みかえる」研究会、東山いきいき市民センター(京都)	
43	島田龍	「暁佳奈『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』論—思いを繋ぐ(手紙)、暴力の記憶(火傷)、ピュグマリオンズム、名付け—」	2020年11月7日	ロマン的なもの研究会、東山いきいき市民センター(京都)	
44	西田彰一	「寛克彦を戦前の記紀神話の学知史にどう位置付けられるか」	2020年10月17日	「学知史から近現代を問う/読み替える」第三回研究会、佛教大学(京都・リモート)	
45	西田彰一	「大正期における精神修養と健康増進 <やまとばたらき>を例に」	2020年7月17日	近代日本思想史研究会第1回例会 立命館大学(京都)	
46	西田彰一	「南原繁の戦後教育改革に至る思想形成——戦前日本の政治体制への対峙」	2020年11月3日	第17回南原繁シンポジウム、学士会館(東京)	
47	西田彰一	「普通選挙法成立後の水野錬太郎の政治思想」	2020年11月8日	日本思想史学会大会、甲南大学(神戸・リモート)	
48	西田彰一	「片山杜秀氏へのリプライ報告:拙著『躍動する国体——寛克彦の思想と活動』」	2020年11月15日	日本文明研究フォーラム、麗澤大学(東京・リモート)	
49	西田彰一	「加藤完治における共同性——生き方としての「農民」保守」	2021年2月26日	同志社大学人文科学研究第10部会、同志社大学(京都・リモート)	
50	寺澤優	「戦前日本の花柳界弱者と廃娼論の形成」	2020年10月	韓国日本近代学会第41回国際學術大會(リモート)	
51	寺澤優	「近代日本売買春研究の課題と展望」	2021年3月19日	近代日本思想史研究会第4回例会、立命館大学(京都)	

52	黒岡佳柁	轟孝夫『ハイデガーの超政治』に寄せて	2020年12月	ハイデガー研究会特別企画、ZOOM(オンライン)	齋藤元紀
53	亀井大輔	生・生き延び・死後の生— —隠喩の反転が開くもの	2020年6月	宮崎祐助『ジャック・デリダ 死後の生を 与える』合評会、オンライン	宮崎裕助、立花史、長坂真澄
54	亀井大輔	デリダと九鬼周造—偶然性をめぐる	2020年8月	東アジアにおける哲学の生成と発展— —間文化の視点から・第三回共同研究会、 京都大学+オンライン	杉村靖彦、張政遠、植村玄輝、景山洋平、 ほか
55	亀井大輔	超越論的暴力をめぐって— —鈴木康則「条件への思考— —ジャック・デリダ「暴力と形而上学」の 読解」への問い	2021年1月	「暴力と形而上学」、あるいは思考と暴力— —J・デリダ、E・レヴィナスと共に考える、 オンライン	鈴木康則、藤岡俊博、宮崎裕助、合田正人
56	伊勢俊彦	歴史的不正義からの回復： いかにして被害は語りうるものになるか	2020年4月	応用哲学会 第12回年次研究大会	
57	江口友朗	「Several Academic Back Grounds and Our Research: from the view of Interdisciplinary Studies」	2021年3月	Ecological- Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary Studies, web 開催	
58	日暮雅夫	「J.Habermas' Theory of Civil Society, and East Asia」	2021年3月	Ecological- Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary Studies Web	
59	井手上和代	ケニア・ナイロビにおける 小規模零細事業主の資金調 達—生産形態と在来金融の 変化に着目して—	2020年5月	日本アフリカ学会	
60	井手上和代	Production Patterns and Financing of "Jua Kali" Metalworkers in Nairobi, Kenya	2020年12月	Korean African Society	
61	三枝暁子	『塵袋』と柳田民俗学—中 世と近現代をつなぐ試み—	2020年9月	人文研助成プロジェクト、立命館大学 人文科学研究所共同研究室	
62	三枝暁子	日本中世の社会構造につ いて考える	2021年3月	人文研助成プロジェクト、立命館大学 人文科学研究所共同研究室	
63	平石貴士	日本におけるパルクールの 早期実践者たちについての 事例報告：スタイルの分化・ ジム経営と教育・環境の用 具化	2021年2月	日本スポーツ社会学会第30回大会	三谷舜、市井吉興
64	Kobayashi, Yasuko Hassall	“Toward a Society Resilient against Division and Hatred “	2020年5月	COVID-19 and Hate Speech, International Roundtable, Asia Centre (Bangkok, Thailand)	
65	MATSUI, Nobuyuki	How Can Bodily Being Form an Inclusive Social Value?: Nakamura Yujiro' s PhilosoPhy of the “Common Sense” against Social Fragmentations and OPpositions in the ContemPorary Technological Environment	2020年9月	Asia Pacific Conference, Online	
66	川村仁子	先端科学・技術のガバナ ンス —研究・開発のためのリ スク管理の枠組み—	2020年10月	日本国際政治学会 2020年度研究大会、 オンライン開催	
67	中谷義和	国民国家の断層化	2020年11月	立命館大学人文科学研究所助成プロ グラム「自由民主生の体制原理」研究会、 立命館大学衣笠キャンパスおよびオン ライン開催	
68	松井信之	リベラル・デモクラシーの 擬装 : 「グローバル共通感	2020年12月	立命館大学人文科学研究所助成プロ グラム「自由民主生の体制原理」研究会、	

		覚学」からの自由と平等の再定義		立命館大学衣笠キャンパスおよびオンライン開催	
69	松下洸	分断化と警察国家化に向かう21世紀の世界	2021年1月	立命館大学人文科学研究助成プログラム「自由民主生の体制原理」研究会、立命館大学衣笠キャンパスおよびオンライン開催	
70	MATSUI, Nobuyuki	What is the Globality of the 'Common Sense' ?	2021年2月	International WorkshoP on Globally Shared Common Sense from the PhilosoPhy of Imagination : Bridging Eastern and Western PersPectives, Online	
71	松井信之	宗教と哲学の間、善と悪の間	2021年3月	第42回政治哲学研究会 合同シンポジウム『宗教と哲学』、オンライン開催	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	シンポジウム「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)以後の観光研究」	オンライン	2020年7月	当日参加者数:約100名 アクセス数:約1万500回(2021年5月末現在)	JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究代表者:遠藤英樹)
2	シンポジウム「Malaysia on Tour with/after COVID-19—新型コロナウイルス感染症以後のマレーシア観光を考える」	オンライン	2020年7月	当日参加者数:約50名 アクセス数:約150回(2021年5月末現在)	JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究代表者:遠藤英樹)
3	研究会「マレーシア、観光、文化」	オンライン	2020年9月	当日参加者数:約50名 参加者数:約50名	JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究代表者:遠藤英樹)
4	シンポジウム「AI以後の人文・社会科学を問う」	オンライン	2020年12月	当日参加者数:約100名 アクセス数:約200回(2021年5月末現在)	JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究代表者:遠藤英樹)
5	研究会「COVID-19以後のアジアにおける観光状況」	オンライン	2021年2月	当日参加者数:約50名 アクセス数:約25回(2021年5月末現在)	・立命館大学研究高度化推進施策『With コロナ社会 提案公募研究プログラム—Visionaries for the New Normal—』「COVID-19以後のツーリズム・モビリティの課題と可能性」研究代表者:遠藤英樹 ・JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究代表者:遠藤英樹)
6	シンポジウム「COVID-19以後のモビリティ研究」	オンライン	2021年2月	当日参加者数:約100名 アクセス数:約50回(2021年5月末現在)	・立命館大学研究高度化推進施策『With コロナ社会 提案公募研究プログラム—Visionaries for the New Normal—』「COVID-19以後のツーリズム・モビリティの課題と可能性」研究代表者:遠藤英樹 ・JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)」(研究代表者:遠藤英樹)
7	研究会「COVID-19時代におけるフィールドワークの(不)可能性」	オンライン	2021年3月	当日参加者数:約50名 アクセス数:約500回(2021年5月末現在)	・立命館大学研究高度化推進施策『With コロナ社会 提案公募研究プログラム—Visionaries for the New Normal—』「COVID-19以後のツーリズム・モビリティの課題と可能性」研究代表者:遠藤英樹 ・JSPS 科研費 基盤研究(C) 20K12442 「グローバルなアジア世界の共生を志向する

					ポリフォニック・ツーリズム (多声的観光) (研究代表者: 遠藤英樹)
8	オンライン・パフォーマンス・アーツ座談会「いのちの橋を渡る音色 (Phleng Spean Chivit)」の創作をめぐる一阿古耶姫の伝説、伝統、自然」(ゲスト・スピーカー: プルムソドン・アオク、佐藤信、太田豊)	オンライン	2021年3月	25名	カンボジアゲイ古典舞踊団 Prumsodun Ok & NATYARASA
9	研究会「市民社会の変遷に関する現代史的考察」	オンライン	2020年8月	当日参加者数: 5名	
10	研究会「200年中国」4大政治プレートの磁場と21世紀中国」	末川記念館会議室3	2020年12月	約25名	
11	若手研究者支援のための連続研究会「人文・社会科学研究の最前線」	学而館研究会室1およびZoom	2021年2月	のべ20名	
12	研究会「批判的社会科学の最前線」	Zoom	2021年3月	当日参加者数: 約25名	批判的実在論研究会
13	書評研究会「鎮目真人『年金制度の不人気改革はなぜ実現したのか』(ミネルヴァ書房、2021年)」	存心館204およびZoom	2021年3月	のべ20名	産業社会学会
14	連続書評研究会「韓国政治の現在を考える」	存心館204・学而館304およびZoom	2021年3月	のべ60名	立命館大学コア研究センター、立命館大学東アジア平和協力研究センター
15	デリダ『ハイデガー 存在の問いと歴史』合評会	オンライン	2020年12月	90名	脱構築研究会、ハイデガー研究会
16	「哲学と諸学問における「間文化性」-専門的研究からトランスディシプリナリーな研究への展開」	オンライン	2021年3月	40名	間文化現象学研究センター
17	メルロ＝ポンティからデュフレンヌへ 美学における感情の問題について」	オンライン	2021年3月	20名	間文化現象学研究センター
18	「ひとはいかにして思考するのか?-パタイユ、ブランショ、ナンシー」	オンライン	2021年3月	270名	東京大学「共生のための国際哲学センター」
19	Ecological-Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary Studies	web開催	2021年3月	60名	立命館大学アジア・日本研究所、名古屋大学経済学部100周年事業
20	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2020年9月	4名	
21	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2021年3月	4名	
22	シンポジウム「パルクールの実践と研究」	ZOOMでの開催	2021年3月	40名(延べ人数)	登壇者(アーバンスポーツ研究会メンバーのみを記す): 平石貴士(報告)、住田翔子(報告)、塩見俊一(司会)、市井吉興(冒頭とまとめの挨拶)
23	2020年度第1回研究会	衣笠キャンパス・オンライン	2020年11月	10名	
24	2020年度第2回研究会	衣笠キャンパス・オンライン	2020年12月	10名	
25	2020年度第3回研究会	衣笠キャンパス・オンライン	2021年1月	10名	立命館大学人文科学研究重点プロジェクト「グローバル化とアジアの地域」

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	遠藤英樹	朝日新聞 GLOBE「新型コロナウイルス感染症と観光」	朝日新聞 GLOBE	2020年5月
2	遠藤英樹	NHK ニュース7「新型コロナで世界の観光産業34兆円損失」	NHK ニュース7	2020年8月
3	遠藤英樹	長崎テレビ「マルっと!朝食がっつなく長崎の魅力再発見」	長崎テレビ	2020年10月
4	遠藤英樹	読売新聞「京都・先斗町 無電柱化で路地スッキリ(京都版)」	読売新聞	2020年8月
5	遠藤英樹	読売新聞「修学旅行 地元のススメ(京都版)」	読売新聞	2020年10月
6	遠藤英樹	読売新聞「3志士像 銅じゃないのどう?見掛け倒しも一興(高知版)」	読売新聞	2020年10月
7	遠藤英樹	ウィズ=アフター-COVID-19の観光	立命館大学土曜講座	2020年12月

		—その可能性と課題		
8	加藤雅俊	長崎新聞「「活力ある地域社会の形成」に関する調査—諫早市・雲仙市を対象とした住民意識調査—」	長崎新聞	2020年9月
9	加藤雅俊	西日本新聞「「活力ある地域社会の形成」に関する調査—諫早市・雲仙市を対象とした住民意識調査—」(長崎版)	西日本新聞	2020年9月
10	加藤雅俊	朝日新聞「「活力ある地域社会の形成」に関する調査—諫早市・雲仙市を対象とした住民意識調査—」	朝日新聞	2020年12月
11	白戸圭一	「朝日新聞Globe+」への連載	朝日新聞Globe+	2020年4月～2021年3月(計9回)
12	本名純	「じゃかるた新聞」への連載	じゃかるた新聞	2020年4月～2021年3月(計12回)
13	市井吉興	番組内でのZOOMでのインタビュー出演	TOKYOFM「サステナデイズ」	2020年11月19日
14	松井信之	研究報告「コスモロジーと自覚の立場：中村雄二郎の『共通感覚』の哲学とアジアへと開く日本文化への可能性」	『立命館アジア・日本研究学術年報』1巻、PP.48-52.	2020年6月
15	松井信之	書評「書評：中沢新一『レンマ学』」	『立命館アジア・日本研究学術年報』1巻、PP.178-181.	2020年6月
16	川村仁子	報告論文「先端科学・技術のガバナンス—研究・開発のためのリスク管理の枠組み—」	日本国際政治学会2020年度研究大会、オンライン公開	2020年10月

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014年10月

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	遠藤英樹	グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
2	山本理佳	現代観光におけるガイドツアーの重要性に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
3	加茂利男	公教育と社会活動を通じた政治統合の日加豪3ヵ国比較研究—流動化する時代の政策対応	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
4	松田亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
5	鎮目真人	公的年金制度の制度改革と脱貧困化に向けた政策立案	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
6	亀井大輔	20世紀フランスにおけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	代表
7	江口友朗	人的ネットワークの経済効果を組み込んだ所得再分配構造のモデル化：タイを中心に	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
8	櫻井純理	福祉・労働を架橋する政策のガバナンスに関する国際比較研究—北欧と日本の地域政策	基盤研究(B)	2019年4月	2022年3月	代表
9	長尾伸一	モダニティとニュートン主義：複数世界・知の科学化・ソーシャリティ文明の再構築	基盤研究(C)	2017年3月	2021年3月	代表
10	白戸圭一	2010年代日本の対アフリカ政策～「反応」から「戦略」への転換を検証する	科学研究費 令和2(2020)年度基盤研究(C)(一般)	2020年4月	2023年3月	代表
11	三枝暁子	郷・村民初出データにみる日本中世の民衆社会	基盤研究(A)	2018年4月	2022年3月	代表
12	花崎育代	大岡昇平文学の基礎的および総合的研究	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表

		一構想ノート・原稿類を含む一				
13	竹中歩	「グローバル文化戦略としての食:『ニッケイ料理』をめぐる階層の力学」	基盤研究(C)	2020年4月	2022年3月	代表
14	小林ハッサル柔子	太平洋戦争と国際移動のグローバル史:アジア地域からオーストラリアへの疎開者の歴史	基盤研究(C)	2021年4月	2022年3月	代表
15	川村仁子	国際的な官民連携による先端科学技術ガバナンスの研究:ナノテクノロジー分野を事例に	若手研究(B)	2017年4月	2022年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	加藤雅俊	諫早湾干拓紛争の処理に向けた実践的研究——有明海に関するローカル知の集積と活用に注目して	クリタ水科学研究振興財団	2019年4月	2021年3月	代表
2	加藤雅俊	大規模環境紛争の処理に向けたローカル知の蓄積および活用に関する実践的研究——諫早湾干拓紛争を事例として	日本生命財団	2019年4月	2021年3月	代表
3	加藤雅俊	環境紛争の長期化が人々の行動および認識に与える影響に関する総合的研究——諫早湾干拓紛争を事例として	カシオ科学振興財団	2019年4月	2021年3月	代表
4	加藤雅俊	環境紛争およびその処理過程がもたらした地域分断からの再生に関する研究——韮の浦道路計画を事例として	三菱財団	2020年4月	2022年3月	代表
5	加藤雅俊	保育現場関係者への実態調査から考える保育政策の課題と展望	野村財団	2020年4月	2022年3月	代表
6	加藤雅俊	保育現場の労働環境を改善するための政策形成に関する研究	日本生産性本部	2019年4月	2022年3月	代表
7	加藤雅俊	現場からみる保育政策の課題と展望	旭硝子財団	2019年4月	2022年3月	代表
8	加藤雅俊	雇用保障重視型福祉国家の再編に関する比較研究	日本証券奨学財団	2020年4月	2022年3月	代表

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本